

# 土木学会四国支部「土木紀行」No.10(高知県)

## 「手結港の可動橋」

高知県香南市夜須町の市街地の東側、手結岬に抱かれるように手結港はある。手結港は、県立手結住吉自然公園の内部に位置しており、日本で初めての「掘り込み港」である。港自体は古くからあったようだが、現在のような石積みを施し、掘り込み港として整備されたのは今から約350年前のことである。土佐藩の奉行であった野中兼山が整備を行い、その利用度を高めた。着工は1650年、竣工は1657年である。

手結港は、現在も漁港としてしっかりと機能しており、港の周りには、家々が並び、淡々と生業を営む漁村の雰囲気を感じられる。石を積んで作った小さな港は、当時の土佐藩にとってはもちろんのこと、今現在においても非常に貴重なものである。それを思わせるように、港にある看板にはこう書いてある。

「南を半島によって囲まれ港口を西に向けて夏の暴浪を防ぐことができる土佐藩屈指の良港であり、石積み住時を偲ばせる。」と。

港の入り口には、近年架け替えられた跳ね橋がある<sup>1)</sup>。橋長は32.8m、幅員7.0~9.0m、歩道2m、竣工は2002年である。1日に6回開閉し、18:00~6:30の間は開いており、6:30から8:00の間は閉まっている。それからは一時間置きに開閉を繰り返し、また、18:00からは開くというように可動している。

開いている時間には、道路が直立しているめずらしい風景を楽しむことができる。次に手結港の可動橋付近を上空から見たときのイメージイラストを示す。



図1 手結港および可動橋イラスト（左：船舶航行可能時、右：車両通行可能時）  
（可動橋そばの説明用立て看板より）

写真－１は可動橋が閉じている場合の写真である。橋が開くときは、まず踏切が鳴り始め、遮断機が下る。そして踏み切りの音が止まるとそこからは音もなく、ゆっくりと橋が持ち上がる。そして動き始めて約３分半で持ち上がりきる。

持ち上がった橋を下から眺めると壮観であり、風情を感じることができる。



写真－１ 可動橋閉時

写真－２、３は橋が全開した時、それぞれ視点を変えて撮影したものである。現場で見ると、たいへんな臨場感を感じることが出来る。近年、地の利を得、周囲の美しい自然と海洋性資源を基調とした海洋性レクリエーション基地として注目されている<sup>2)</sup>。



写真－２ 可動橋全開時の様子 1



写真－３ 可動橋全開時の様子 2

(高知高専専攻科建設工学専攻 2年 間嶋純一)

#### 参考文献

- 1) Web高知ホームページ <http://www.webkochi.net/map/index.php?key=sanpo21-1>
- 2) 夜須町ホームページ [http://www.kojyanto.net/kochi\\_inf/kanko/yasu/](http://www.kojyanto.net/kochi_inf/kanko/yasu/)